



## コロナ第3波の襲来で、1、2月例会を休会

3月例会会長挨拶

古賀靖子

梅、ミモザの花々も終わり、明日はお彼岸の入りでございます。「暑さ寒さも彼岸まで」と申しますように春の暖かさを感じるこの頃です。北九州市内でも桜の満開が目の前にきています。

昨年の第1波コロナ禍の際は、3月、4月と5月の2ヶ月間、例会をはじめプロバスクラブの諸行事をお休みするなど自粛しました。今年は1月例会で皆様方と楽しく新年会をと親睦委員会の皆様を中心に趣向を凝らしていましたが、第1波を凌ぐ勢いの第3波の襲来により1月と2月の例会等を休会することとなりました。本当に自粛続きでタイムワープしたような1年でした。2020年を振り返ってみますと、「本当に何もなかった。時間が失われた」感覚でございます。この先、広く人々が免疫を得るのは何時になるのでしょうか？ そのカギの一つはワクチン接種であり、そのワクチンを安全に運ぶインフラの整備でしょうか？

去る3月11日、東日本大震災から10年が経過しました。その災禍をくぐり抜けた方々が、この2月14日に震度6強という激しい地震に見舞われました。揺れが与えた恐怖は計り知れません。たとえ震災の当事者でなくても、今この地震列島で命をつないでいるのは恐らく何かの偶然に過ぎないのではと、ふと思ってしまいました。私どものクラブでも、2011年から2015年の5年間、東日本大震災被災者への義援金を釜石市の「釜石ふるさと寄付金」に寄付したのを思い出しました。

では、このあとの本日の例会では、新年会で予定していました諸々を入れ込んでいます。時間の関係もございますので、どうか、手際よくお願いしたいと思います。

最後になりましたが、現在緊急事態宣言は解除にはなっていますが、くれぐれもコロナ対策には気を緩めることなく防御を続けていただき、来月の例会にもお元気でご出席されますようお願いいたします。

### 「寿ぎ」川柳で傑作誕生！

今年も遅ればせながら[川柳大会]を開催しました。お題は「寿ぎ」。プロバスらしい35句の名迷？作が集まりましたので、各会員優秀作と思われる句を3票ずつ選んで頂いた結果、一位は12%の人気でした。



- 第一位「マスク越し 名前も判らず オメデトウ」… 神田澄男
- 第二位「まだまだと 卒寿の母に 励まされ」… 近藤弘子
- 第二位「古希の声 聞かぬふりして 日々楽し」… 植田佐世子
- 第四位「卒寿終え 次は白寿の 夢を見る」… 吉田信雄
- 第四位「おめでとう なんて今年は 言えないわ」… 住吉育代

他、六位は橋本峰子、遠藤信子、中山正英、伊熊克己、安高洋一の各氏でした。来年も楽しみにしています。誰か笑った？ (文責：植田)

### 3月例会報告

会員出席者：26名

1月、2月と新型コロナ感染防止のため例会を中止した。3ヶ月振りである。

最近では最も少ない出席者ではあるがお元気な会員皆様の様子に安堵する。

再入会員 古賀えみ子氏の自己紹介。以前の活発な御姿を彷彿させるご挨拶であった。

植田会員指導による脳活体操。今回も工夫されたリズム感ある体操で脳も身体もほぐされた。続いてのお誕生会は三ヶ月分欠席者含め15名の大人数となった。

会食は会話しながらの以前の和やかな雰囲気にも早く戻ることを願うばかりである。

休憩後、古賀会長挨拶で再開する。

続いて松本会員による卓話。演題は「私の駆け出し記者時代」。最初の赴任地である現北九州市や転勤先の鹿児島県での勤務体験を中心にエピソードを交えながら、記者としてあるべき姿のみならず読者の記事を読む姿勢をも問うような示唆ある卓話であった。ぶん屋ソングも聞きたかった。残念。

休憩。続いて役員選考スケジュール等の説明、意見交換会結果報告、全日本プロバス協議会事務局報告があった。

さらに各委員会の報告や同好会報告へと続いた。ショートスピーチは予定者が欠席のため中止する。

諸連絡・報告に続いて2020年大予想結果報告(1等3名、2等3名、3等9名)、さらに川柳結果発表がなされ入賞者には入賞作品が記された短冊が渡された。大予想発表や川柳発表等の準備をなされた関係者のご苦勞にお礼申し上げます。

続いて古賀

会長からの  
お祝い(敬  
称略)「長寿  
祝(卒寿京谷、  
信友 傘寿岩  
崎、米谷、新宮、松永、松本、藤原=写真)  
年男北島、伊熊 年女富永、住吉」がなされた。



最後に遠藤会員リードによるプロバスの歌を高らかに斉唱した。(中山)

### 卓話

#### 「私の駆け出し記者時代」 会員 松本 忠



読売新聞西部本社に昭和41年に入社、若かりし頃の体験談を中心として語った。

先ず受けた記者教育としては、社会部に配属され電話番号と新聞熟読を命じられたがある日の昼休み中に社員食堂へ行った。昼食時間は夕刊の締め切りが終えた2時頃が決まりであり、席を外したため呼び出しがかかってきて大目玉を喰らった。その後サツ回りを命じられた。鑑識課長から可愛がられ、次長からは6法全書片手に事件・事故に関する法律を教えてもらったり等々、仕事を通して幹部警察官からも新人記者教育を受けた。

社内では推測や伝聞、うわさは必ずその事実を確認するように強く指示された。また記者にとって朝刊・夕刊は半日ごとの通信簿であり他社に抜かれ、後追い取材にならないように他社の新聞にも目を光らせた。

生きた記事を書くには事実を事実として書くのは当然であるが、記者の問題意識と自由な発想がベースとなることを強く意識させられた。

入社半年後、鹿児島支局へ転勤し、諏訪之瀬島を目指している新宿のヒッピーの親玉との単独インタビューに成功したり、鹿児島県内の市町村に過疎化対策のアンケート調査し企画記事として連載したり、中国の水爆実験や台風銀座と言われている鹿児島のシラス台地の集中豪雨による大きな災害、鹿児島大学紛争等々にも取材通して大きくかかわった。また、取材中の古老の鹿児島弁には意味不明で苦勞したり、内之浦ではロケットの発射写真撮影に失敗したりしたこと等もあった。

4年半の鹿児島での取材を通して多くを学んだが、とりわけ生きた記事は掘り起こすものであり与えられるものでないことを学び、体得した。

福岡総局に転勤した後、イスラエルのテルアビブ空港乱射事件の犯人である日本赤軍のメンバー岡本公三は鹿児島大学紛争取材時の情報源の一人だった。そのテレビニュースには腰が抜けるほど驚いたが本社からの求めで岡本に関する原稿を書いた。

資料のぶん屋ソングやデスク恨み節などを美声で聞かせてくれると期待していたが残念ながら……

記者は問題意識を持って取材し原稿を書くことの大切さを述べられたが、我々新聞読者の記事を読む姿勢をも問うている示唆ある卓話であった。(中山)

## 委員会活動報告

### 活性化委員会

#### ホームページ立ち上げ始動

4月3日にSC会館で委員7人が集まり、当クラブのホームページの制作準備を話し合った。

「生きがい作り」や「社会貢献」などを前面に打ち出し、見やすい、親しみの持てるページにしていこうと基本方針を定め、具体的に原稿作りをしていくことになった。完成は今年7月予定。会員の方も情報交換などに活用してください。(世話役・安高)



## 同好会活動報告

### ■歴史文学講座

#### 古代都市についての総括

柳澤先生によるこの講座は、過去8回に亘りヨーロッパ古代都市の形成について学んできた。それはアテネに始まり、ローマ・ヴェネツィア・フィレンツェと、現イタリアの諸都市へと進んだ。

そして、今回(3月28日)の講義は19世紀の二人の学者の説を中心に、一旦これまでを総括する形となった。しかし700~800年にも及ぶ、あまりにもロングで、超俯瞰的な解説は要約に窮するものがある。都市の衰退が、政治のみならず経済(貿易・農業)の推移と深くかかわっていることだけは印象付けられた。例1=東ローマやシリアなど東方貿易品(パピルス他)の量的な変遷。例2=農産物の量的増大に伴う余剰品のマーケットの拡大等。

余談だが、北九州に住む我々も、基幹製造

業と連動する都市の活力の推移をいま肌で実感している。

尚このレクチャーは次にケルン(独)に移り、間もなく終了する予定となっている。

(竹原)

### ■写友会

#### 作品展を見に来て!



写友会は4月1日、小倉北区の市立医療センター1階食堂前の壁に、会員6名の作品14点を展示しました。

作品は、桜を中心とした花の作品が6点、爽やかな海の風景が5点、それにファンタジックな雰囲気のある作品3点で、いずれも個性的。展示作業中、横を通る病院関係者をはじめ患者の付き添いの人たちが作品をのぞき込んでいました。

展示は30日午前まで。プロバスの会員の皆様にはぜひ足をお運びいただいて、ご批評賜りますよう、お願いいたします。(松本)

### ■日本酒の会

#### ほろ酔い気分で夜桜が歓迎

3月30日(火)にいつものNAOで日本酒の会がありました。参加者は7名(男性3名、女性4名)でした。

3か月ぶりの会だったからか、定刻前には全員集合の張り切りようでした。新潟の緑川(純米吟醸)での乾杯で会は始まりました。楽しい会話で盛り上がり、アツという間の3時間でした。お酒は他に緑川の本醸造、秀風(山形)小左衛門(岐阜)を楽しみました。美味しいお酒と料理と楽しい会話を満喫して閉会となりました。近くには2\*ほど続く桜並木があり、満開の桜が我々を歓迎してくれました。(藤原)

## 全日本プロバス協議会事務局報告

### 未加入クラブへのアンケート結果

#### 会員減で役員改選や地域活動に支障

全日本プロバス協議会事務局は新年早々、全日本協議会未加入の49クラブに活動の現状や全日本協議会への復帰の有無を問いかけたアンケートを送った。3月末の締切までに回答してくれたのは14クラブで、そのうち有効回答12クラブの回答から見えてきたものの一部を報告しよう。

我が国最初のクラブが兵庫県で誕生したのは1988年1月だが、以降33年間で117クラブが産声を上げており、うち現在も活動中と推測されるのは91クラブ。現在の会員クラブは48クラブで、活動中の未加入クラブは43クラブと推測され、26クラブが姿を消していた。

有効回答12クラブのうち、この3年間で会員を増やしたのはわずか2クラブ。9クラブが会員減(最高9名減)に悩まれ、「高齢化による活力の低下」だけでなく、「自ら動こうとする会員が減り、常に受け身の活動をするようになった」と述懐するクラブもあ

り、役員改選や地域活動などに支障をきたしていた。

全日本協議会への加入(復帰)を検討してもよいと答えたのは残念ながらわずか1クラブのみ。調査結果の詳細は近く各ブロックや地区を担当する常任理事、理事に配布する予定だ。(松本)

#### ■2020年大予想結果発表■

(敬称略、順不同)

1等(3名) 古賀靖子、松本忠、安高 洋一

2等(3名) 松永光代、竹原英作、米谷元則

3等(9名) 遠藤信子、吉田秀子、植田佐世子、脇孝之、洞ミヨ子、中山正英、内藤康子、住吉育代、近藤哲生、

#### ♡再入会会員のご紹介



古賀えみ子さん

SPシニア(株)会長

趣味は旅行、音楽、仲間との朗読会など。

皆さまとの活動が楽しみです。

よろしくお願いいたします。

#### お誕生日おめでとうございます。(敬称略)

▽1月 米谷 元則 (1日) 欠 大石 照志 (1日)

新城 富美子 (5日) 眞鍋 雄一 (8日)

内藤 康子 (18日) 欠

▽2月 山下 博 (4日) 欠 中山 正英 (27日)

▽3月 信友 明 (1日) 欠 近藤 哲生 (2日) 神田 澄男 (11日)

遠藤 信子 (12日) 古賀 えみ子 (15日) 藤原 智子 (16日) 欠

安河内 幸子 (26日) 安高 洋一 (31日)

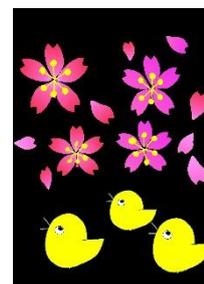


※コロナ禍で1、2月の例会が中止となったため、3か月まとめてのお祝いになりました。

#### ありがとう BOX メッセージ 3月分 (順不同、敬称略)

★春で気分が高揚。自粛は続けましょう！(古賀)★久しぶりの例会。病苦忘れる。どうぞみんな元気で。(脇)★誕生を祝っていただき有難うございます(遠藤)★感謝(松永)★すてきな1日でした ありがとうございます(池田)★久しぶりの例会。元気な笑顔に一安心(住吉)★早く安心して会食ができます様に(橋本)★久しぶりの例会、生をかみしめて。(大川)★再開を嬉しく思います。よろしくお願いいたします(中山)★コロナにも負けない。今年も桜満開だ(吉田信雄)★プロバスクラブにお迎えいただき感謝しています(古賀えみ子)★コロナに負けずにがんばろう。(洞)★年度末で忙しいけどホッとする(柴村)★3月11日生まれ東北ガンバって(神田)★陽春と云う気持ちになれません(竹原)★脳活体操ついていけない(安高)★皆様お久振り。お元気そうで何よりです。(近藤哲生・弘子)★植田 眞鍋 松本

収支報告	12月末残高	92,401円
	3月分	10,200円
	3月末残	102,601円



(文責・松永、イラストも。桜の下、ヒヨコのお散歩)